

令和元年 7 月 吉日

## 第 51 回 海洋工学パネル

### 国際クルーズ市場と日本の取組み

日 時： 2019 年 7 月 31 日（水） 9:30～17:10、懇親会 17:15～19:00

会 場： 日本大学 理工学部 駿河台キャンパス 1号館 2階大会議室

#### 【趣 旨】

日本のクルーズ人口は長く 20 万人台でしたが、2017 年には過去最高の 31.5 万人を記録しました。また、訪日クルーズ客は 252.9 万人に及び、日本を取り巻くクルーズ市場は急成長しています。一方で、世界のクルーズ人口は 3000 万人に及ぶ勢いがあり、東京オリンピック・パラリンピックを迎えて更なる訪日クルーズの増加が期待されています。このような背景において世界ではクルーズ船の新造ラッシュといわれる状況にあり、魅力あるクルーズターミナルの建設も盛んに行われています。また、日本においてもラグジュアリー船の改装計画や国際旅客船拠点形成港湾への対応が進められています。そこで、国内外のクルーズ市場の動向をクルージングやクルーズターミナルの魅力を交えて講演いただき、今後の取組みの方向性を議論します。

#### 【プログラム】

午前の部 司会 日本海洋工学会 運営委員 増田光一（日本建築学会）

09:30～09:35 開会挨拶 日本海洋工学会会長 鈴木英之（日本船舶海洋工学会）

#### 09:40～10:30 我が国におけるクルーズ振興の動向

国土交通省 港湾局 産業港湾課 クルーズ振興室／官民連携推進室室長  
林 健太郎

近年、クルーズ人口が世界的に伸びを見せる中、訪日クルーズ旅客数は 2013 年からの 5 年間で約 14 倍と急激に増加し、我が国の港湾行政も迅速かつ柔軟な対応が求められている。本講演においては、まず、クルーズの世界的な動向について概説する。次に、我が国におけるクルーズ情勢について、その大部分を占める中国からのクルーズの動向も含め整理する。その上で、政府が掲げる「2020 年訪日クルーズ旅客数 500 万人」の目標達成に向けた、国や地方自治体、さらに官民連携による様々な取り組みを紹介し、クルーズ振興の観点から港湾行政を考える足がかりとしたい。

#### 10:35～11:25 クルーズ客船のデザインと建造

大阪府立大学名誉教授・日本クルーズ&フェリー学会前会長  
池田良穂

現在、世界的なブームを起こしているクルーズ産業は、1960 年代にカリブ海で生まれた現代クルーズと呼ばれる新しいビジネスモデルである。今では、年間 2700 万人が楽しみ、14 兆円経済波及効果をもつ巨大海事産業に成長した。その成功の要因は、移動、宿泊、食事、エンターテイメントまでを含んで 1 万円台からという格安の価格にあった。この価格を実現するには、船の大型化が必要で、1970 年代までは 2 万総トン前後であったが、その後 4

万総トン、7万総トン、15万総トンと大型化し、2010年代には22万総トン船が登場した。ダイナミックに変化をするクルーズ客船のデザインと建造状況について解説する。

#### **11:30～12:00 東京国際クルーズターミナルの開業に向けた取組**

**東京都港湾局 港湾経営部 広域港湾連携担当課長**

**福元香苗**

東京港における客船受入は晴海客船ターミナルにおいて行ってきたが、レインボーブリッジの奥に位置するため、大型化する客船に対応することができない。クルーズ市場の成長を捉え、東京へのインバウンド効果をさらに高めるため、都では大型船にも対応可能な新しいターミナルを整備することとした。1年後に迫った開業に向け、現在急ピッチで工事が進められているが、同時に、短時間で大勢の乗客を捌くオペレーションなど運営面での課題解決も急務となっている。円滑な受入と魅力ある施設の実現に向けた取組について報告する。

#### **12:00～12:30 午前の部・討論**

#### **12:30～13:30 昼食**

午後の部 司会 日本海洋工学会 運営委員

小林昭男（日本建築学会）

#### **13:30～13:45 海洋工学関連会議報告**

#### **13:45～14:35 世界のクルーズターミナルの動向と我が国での今後の展開について**

**WAVE 理事長・クルーズ総合研究所**

**山縣宣彦**

港湾の中長期政策「PORT 2030」においては、列島のクルーズアイランド化を図るため、我が国に「北東アジアのクルーズハブ」を形成するとしている。また、みなとまちづくりにおいては、クルーズ船寄港を意識したブランド価値を生む空間形成が必要としている。今後全国的にクルーズ拠点を展開するに際し、参考として頂くよう、現在の主要国のクルーズターミナルの動向を明らかにし、我が国の事情に適したターミナルの在り方についていくつか提案をする。

#### **14:40～15:30 横浜新港ふ頭客船ターミナルの設計・デザインを通じて想うこと**

**株式会社梓設計 執行役員 田村スタジオ・リーダー**

**田村慶太**

その役割を終え静かに佇むハンマーヘッドクレーン。横浜の新港ふ頭に建つその遺構を水際の観光資源として再生しながら計画された、新しい客船ターミナルを紹介する。ラグジュアリーホテルと商業施設を複合させながら議論された計画・デザイン時の議論やアイデアを時間の限り披露する。また、計画中に視察した中東のターミナル運営と日本との違いにも触れ、日本の港の更なる発展へと想いを馳せたい。

#### **15:30～15:45 コーヒーブレイク**

#### **15:45～16:35 東京国際クルーズターミナルの建設と BIM/CIM の活用**

**五洋建設株式会社 東京土木支店 工事所長 勝部歳男**

**五洋建設株式会社 建築本部技術部 専門部長 中村治男**

東京国際クルーズターミナルはクルーズ需要の高まりを受け、大型のクルーズ客船が入出港可能なふ頭として整備されている。「海の波」、「船の帆」、「日本の伝統的な屋根のそり」をイメージしたダイナミックな大屋根に象徴される鉄骨4階建てのクルーズターミナルビルは、延長430mの岸壁を有するジャケット式栈橋と一体となった珍しい形式の建物として建設されている。建設においては、栈橋部分については今後の維持管理に資するようCIM（Construction Information Modeling/Management）が導入されるとともに、CIMによるモデルをターミナルビルの建築工事としてBIM（Building Information Modeling/Management）に引継ぐという、国内でも初めての取組みが行われている。ここでは、東京国際クルーズターミナルの建設の概要を示すとともに、本プロジェクトにおけるBIM/CIMの連携と活用について報告する。

**16:35～17:05 総合討論**

**17:05～17:10 閉会挨拶** 日本海洋工学会副会長 小林昭男（日本建築学会）

**17:15～19:00 懇親会**

司会 日本海洋工学会 運営委員 今井康貴（日本船舶海洋工学会）

**参加費：** 一般 6,000円（テキスト代を含む）

学生（テキスト付き 2,000円、テキスト無し 1,000円）

**懇親会：** 参加費 3,000円

**事務局：** 特定非営利活動法人日本海洋工学会 事務局 猪口茂樹  
東京都港区南青山1-11-30 パレ南青山 107-0062  
（一般社団法人国際海洋科学技術協会気付）

**TEL：** 03-3405-6831 **E-mail：** s.inokuchi@k8.dion.ne.jp